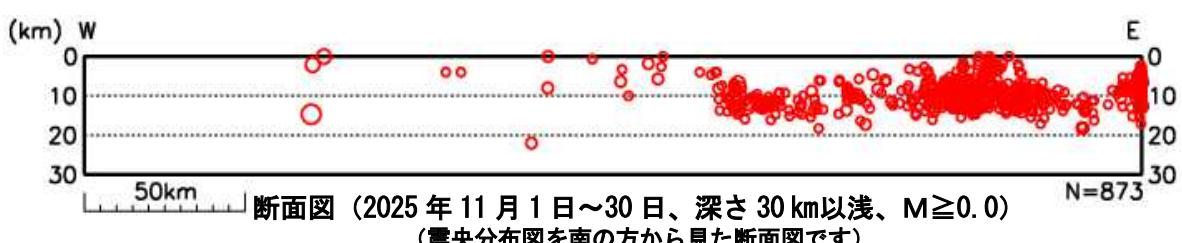
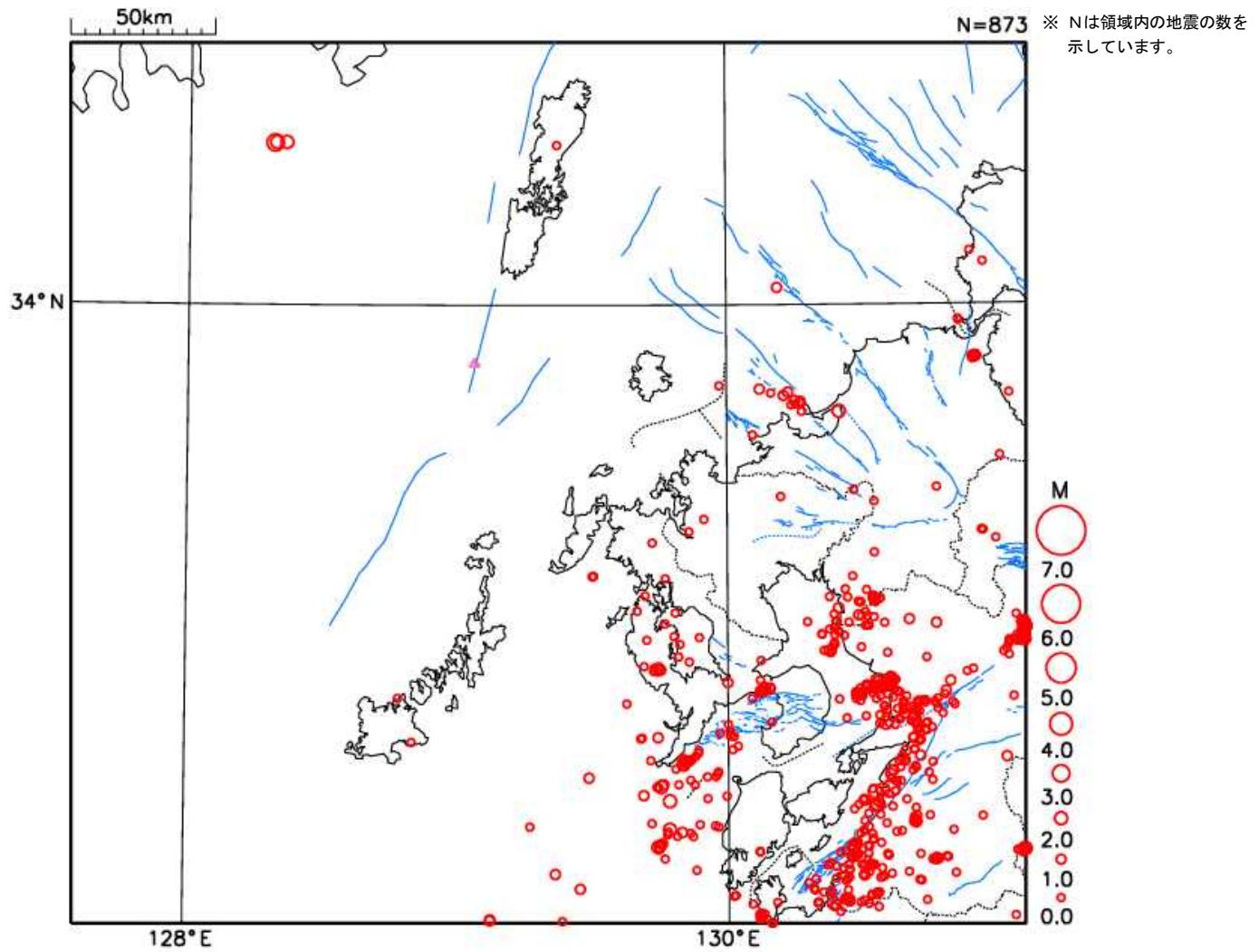


# 長崎県の地震活動概況（2025年11月）

令和7年12月8日  
長崎地方気象台

## 地震活動の概況（2025年11月）

11月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は震央分布図領域外の1回でした（10月は0回）。詳細は2~3ページのとおりです。



※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

### 熊本県阿蘇地方（1頁震央分布図領域外）

25日18時01分に熊本県阿蘇地方で発生したM5.8の地震（深さ9km）により、熊本県産山村で震度5強、熊本県阿蘇市と大分県竹田市で震度5弱を観測したほか、九州、四国、中国、近畿地方で震度4～1を観測しました。長崎県では広い範囲で震度2～1を観測しました。（図1）。

今回の地震の震央付近（図2領域a）では、2016年4月16日03時55分にM5.8の地震（深さ11km、最大震度6強）が発生し、長崎県では諫早市で震度3を観測しました。また、2016年4月18日20時41分にM5.8の地震（深さ9km、最大震度5強）が発生し、長崎県では諫早市と南島原市で震度3を観測しました（図2～3）。なお、今回の地震は「平成28年（2016年）熊本地震」の活動域に含まれています。

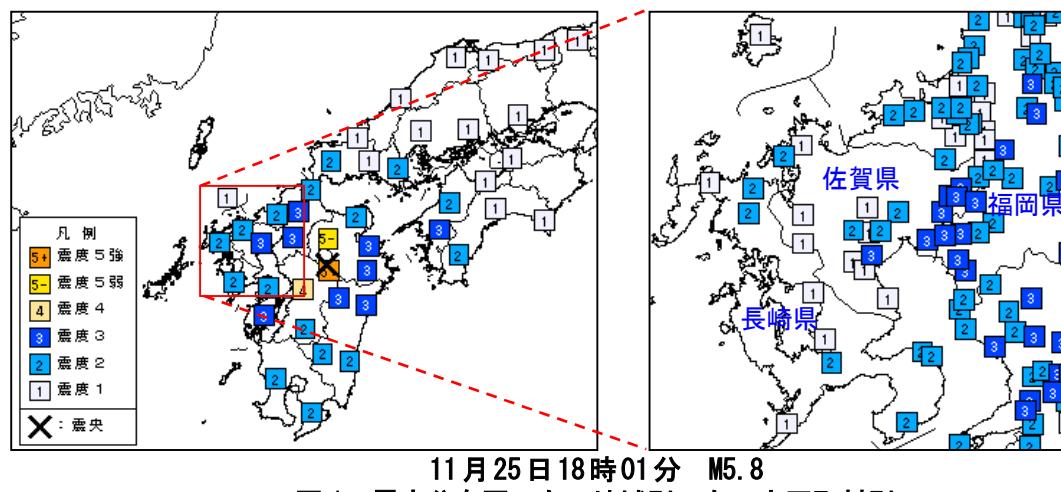


図1 震度分布図 左：地域別 右：市区町村別

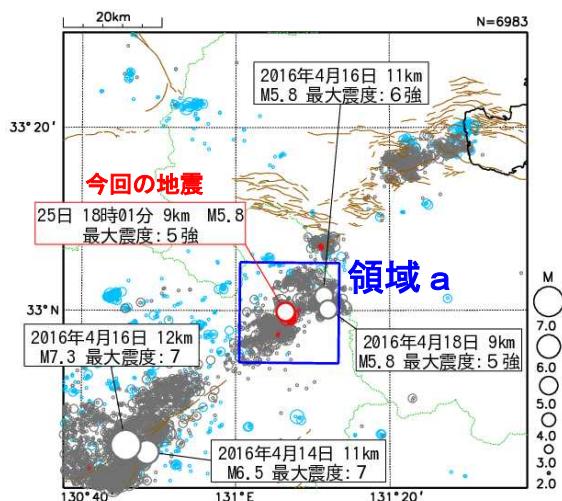


図2 震央分布図

(2000年10月1日～2025年11月30日 深さ0km～20km M≥2.0)

※2016年4月13日以前の地震を青色で

※2016年4月14日以後の地震を灰色で

※2025年11月の地震を赤色で表示。

※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

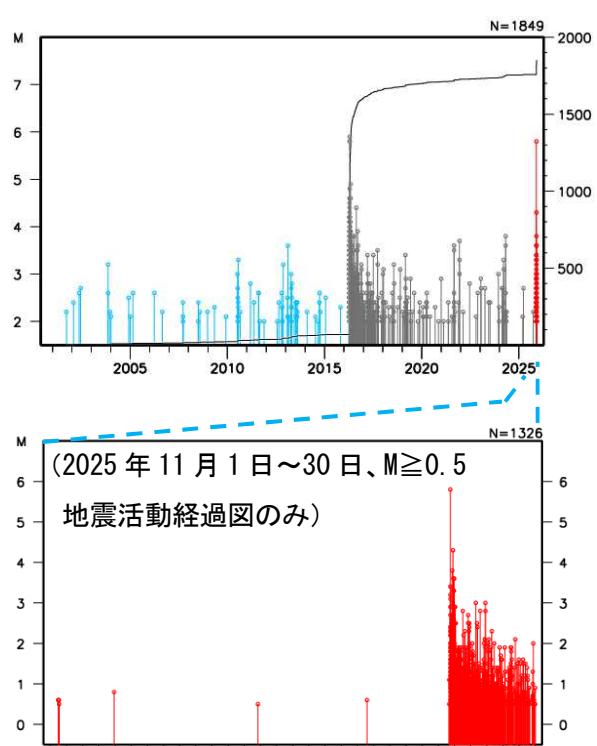


図3 図2領域a内の地震活動経過図及び  
回数積算図

### 長崎県内で震度1以上を観測した地震の表（11月1日～30日）

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2025年11月25日18時01分	熊本県阿蘇地方	32° 59.8' N	131° 06.4' E	9km	M5.8
震度 2 :	佐世保市吉井町*, 松浦市志佐町*, 諫早市多良見町*, 諫早市森山町*				
	島原市有明町*, 雲仙市国見町, 南島原市北有馬町*, 南島原市西有家町*				
	南島原市布津町*, 南島原市深江町*, 南島原市加津佐町*, 南島原市有家町*				
震度 1 :	佐世保市千尽町, 平戸市岩の上町, 平戸市鏡川町*, 平戸市志々伎町*, 東彼杵町蔵本*				
	長崎市布巻町*, 諫早市東小路町, 諫早市小長井町*, 諫早市堂崎町*, 大村市玖島*				
	島原市下折橋町*, 雲仙市小浜町雲仙, 雲仙市千々石町*, 雲仙市吾妻町*				
	雲仙市南串山町*, 雲仙市瑞穂町*, 雲仙市愛野町*, 南島原市口之津町*				
	壱岐市芦辺町中野, 壱岐市郷ノ浦町*, 壱岐市芦辺町芦辺*				

注) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。  
\*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

## 津波情報等に活用する観測地点の追加について

### ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沿岸システムの活用開始～

気象庁では、津波警報等の更新、津波情報の発表の迅速化や精度向上を図るため、「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沿岸システムの津波観測データの活用を開始しました。

国立研究開発法人防災科学技術研究所は、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献することを目指し、それまで観測網が設置されていなかった西側（高知県沖から日向灘）の海底に、地震計と水圧計を備えた「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」（※）を整備しました。N-netは令和6年に整備が完了した「沖合システム」と令和7年6月に整備が完了した「沿岸システム」から構成されます。

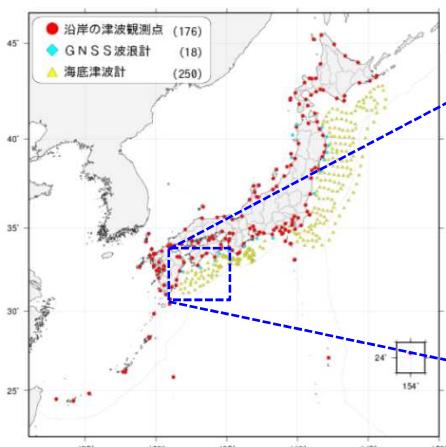
気象庁は、関係機関の協力も得て、沿岸の津波観測点や沖合に設置された海底津波計及び海底地震計の観測データを津波警報等及び津波情報の発表等に活用しており、

「N-net 沖合システム」の観測データについては、令和6年11月21日から津波情報等に活用しています。

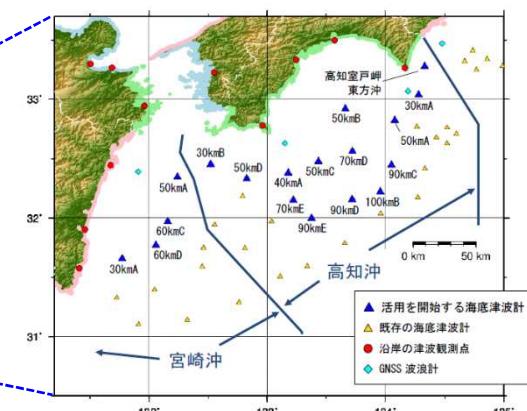
今般、「N-net 沿岸システム」の津波観測データの品質確認等を行い、令和7年11月20日（木）12時から津波情報等への活用を開始しました。これにより、津波の検知が最大で約10分早くなるなど、津波警報等の更新及び津波情報の発表の迅速化や精度向上が図られます。また、津波情報において津波の観測値を発表する沖合の津波観測点は250地点から268地点に増加します。

なお、N-net「沖合システム」、「沿岸システム」全体を津波情報へ活用することにより、津波の検知は最大で約20分早くなります。

※ N-net : Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis



津波の観測値を発表する津波観測点



津波情報への活用を開始した海底津波計の分布図  
※活用を開始した海底津波計の地点名称は「〇〇沖」を省略して記載しています。

詳細については以下のホームページをご覧ください

気象庁 「津波情報等に活用する観測地点の追加について」

[https://www.jma.go.jp/jma/press/2511/14b/20251114\\_N-net.html](https://www.jma.go.jp/jma/press/2511/14b/20251114_N-net.html)

防災科学技術研究所 「南海トラフ海底地震津波観測網：N-net」

<https://www.seafloor.bosai.go.jp/N-net/>